

各委員の御意見一覧

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
P	I-1 奨学金事業			「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』の支給をはじめ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済的困窮に陥った学生への支援を迅速に行ったことは、高く評価できます。令和2年度に前年度と比べて休退学率が増加しなかった、むしろ漸減している（文部科学省の令和3年3月調査結果報告より）要因として、これらの迅速な経済支援があったと想定できます。	コロナ禍による学生・留学生の困窮に柔軟かつ迅速に支援されたことは突出してすばらしいと評価できると思います	
P10	I-1-1 (1) 貸与奨学金					
P11	<1> 貸与奨学金の的確な実施状況		第二種の資格で第一種と同等の無利子貸与が受けられる緊急特別無利子貸与型奨学金の創設など、より多くの学生に支援が行きわたるよう臨機応変に支援策を実施したことは高く評価できる。	緊急特別無利子貸与型奨学金の創設、第二種奨学金の貸与期間延長・継続貸与などの新型コロナウイルス感染症により家計の急変などの影響を受けた者への支援を早期に拡充実施したことは素晴らしいと思います。このような迅速な意思決定プロセスがどのように可能であったか、組織のガバナンスのあり方について、特記すべき工夫や努力された点について、もし何かあれば知りたいと思いました。		
P15	<2> 貸与奨学金における適格認定の実施状況				返還意識涵養がネガティブに働かない配慮を。前回委員のコメントにあった、シミュレータによるシミュレーション結果と本人分析を、適格認定の条件にしてはどうか	適切な貸与月額等の指導の結果がどうだったかの検討が必要である。
P17	<3> 貸与奨学金の総回収率		コールセンターに関しては、コロナ禍において業務体制の縮小等の措置がとられたとあるが、コロナ禍でこれまでにないタイプの相談などが増えると思われることから、コールセンターは拡充することが必要なのではないか。			
P20	<4> 関連指標の実施状況		コロナ禍により返還が困難になる者が潜在的に増加していると思われることから、返還促進を進めつつも、返還困難者を追い詰めないような配慮も必要と思われる。	コロナ禍のたいへんな勤務体制の中、また返還者も同様の先行きの見通しが持ちにくい状況の中、細やかメッセージの配信の工夫をされ、コロナ前と変わらぬ回収率を達成されたことは高く評価できると思います。		債権回収等を新型コロナの状況下で目標値を上回ったことは評価できる。ただし、コロナ禍で通常は回収が困難なと見込まれる中、どのような事態となっているかの分析があるとよい。
P27	<5> 機関保証制度の運用状況					

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
P29	<6> 減額返還・返還期限猶予・返還免除制度の運用状況	<p>・減額返還制度自体は以前からあるものと理解しました。そうなりますと、コロナ対応でのオペレーションを柔軟に対応された点もすでに想定されていたのでしょうか。それとも、コロナ対応での柔軟な対応は、業務プロセスをかなり変更することとなり、現場での対応はかなり大変なものだったのでしょうか。</p> <p>・また、返還期限猶予制度においても同様であり、いずれも前年と同様の件数が処理されているので、特別対応に伴う業務への影響について、当日ご説明を頂ければ幸いです。</p>	減額返還制度や返還期限猶予制度などの救済措置はコロナ禍において一層重要になっていると思われる。新たに返還を開始する者への周知はしっかりと行われているが、返還途中の者に対する周知もホームページでの掲示だけでなく、プッシュ型で周知することが必要だと思われる。			
P32	<7> 所得連動返還方式の運用状況					
P36	1-1-(2) 給付奨学金					
P37	<8> 給付奨学金の的確な実施状況	<p>・コロナ対応としての家計急変採用にかかる業務への影響について、当日ご説明頂ければ幸いです。</p>	コロナ禍で家計が急変した者の救済措置をスピーディーに開始したことは評価できる。		今回HP等の活用で迅速な周知・理解につとめたことは今後機構側の事務作業もさらなるICT化につながる。	家計急変採用のうち新型コロナウイルス感染症事由に該当する人数は何人か？十分な人数であったかがわかると説得的になる（応募者数）。
P39	<9> 給付奨学金の的確な実施状況					
P36	1-1-(3) 奨学金事業に共通する事項の実施					
P44	<10> 奨学金制度の周知及び広報の実施状況			コロナ禍でホームページやチャットボットが多く利用されたのは、前の中期計画時に重点的にサイト等の刷新に取り組まれたことが活きていると考えられます。今後も、さまざまなテクノロジーの積極的な導入と活用が期待されます。	ネット・紙・リアルすべて各種メディア・アプローチを展開している。8月刷新のホームページに期待。	
P47	<11> 学校との連携状況				すべて実践の報告なので、その反応までを結果としたい	オンライン版ガイダンスの参加者数のデータがあるとなおよい。
P47	<12> 効果検証方策等の検討状況				返還完了者の寄付実績を知りたい(完了→寄付とストレートにつながるものなのか)	返還完了通知を受けて寄附金をしたものは何人くらいいるのか？

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
P	I-2 留学生事業					
P54	I-2-(1) 外国人留学生に対する支援					
P55	<13> 日本留学に関する情報提供等の実施状況		コロナ禍で対面での留学フェアの実施が困難な状況の中で、オンラインでの留学フェアを工夫して開催したことは評価できる。全世界を対象としてオンライン実施した結果、従来の対面での留学フェアと比較して参加者数の増減はどうだったのか？ また参加者の国や地域に変化があったのか？ これらのデータの分析を進め、今後の開催形態の一層の改善が望まれる。	コロナ禍の影響下でも、可能な限りオンラインで日本留学に関する情報発信や説明会のイベント開催を行えたことは評価できます。 一方、現在の大学2～3年生は、入学前に希望していた海外渡航をすでに断念している場合も少なくないと考えられます（日本から海外も同様に）。ここに書くコメントではないかもしれませんが、説明会等だけでなく、オンライン留学について、コロナ収束後も選択肢として継続する可能性について、検討していただけたらと思います。		留学オンラインフェアの参加者と説明会開催予定箇所の居住者の関係がどうなっているかを調査し、今後の留学開拓の対象を検討することが重要である。
P59	<14> 日本留学試験の実施状況		試験のコンピュータ試験化は早急に取り組まなければならない重要な課題だと思われる。公正性を保ちつつコンピュータ化する方策の実現が望まれる。			ウェブ入試等の実施が必要である。
P62	<15> 日本留学試験の渡日前入学許可実施校数					
P63	<16> 日本語教育センターの卒業者の進路や日本語レベルの状況					
P69	<17> 日本語教育センターの卒業予定者による教育内容等に対する満足度				基礎科目の満足度向上の取組は東京のみで行われたように読めるが、76%と低かった大阪での取組を求め	大阪の修了生の進学先として専修学校が過半数であることをどう考えるか？
P71	<18> 外国人留学生に対する学資金支給の実施状況	コロナ対応にかかる業務への影響について、当日ご説明頂ければ幸いです。	コロナ禍の状況に即して、臨機応変に給与支給の特例措置などを講じたことは、高く評価できる。			

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
P76	<19> 東京国際交流会館、兵庫国際交流会館における国際交流事業を含めた運営状況					
P84	<20> 外国人留学生に対する就職支援の実施状況					外国人留学生が日本において就職するか日系企業に採用されることは重要であり、その効果を測定すべきである。
P85	<21> 日本留学経験者に対するフォローアップの実施及びこれらとのつながりを維持するためのネットワークの整備状況					上記の指摘事項は、対象国や将来的なことを考慮すると、事業趣旨に必ずしも適合しない短期研究が含まれているということか。将来は不確定なので投資の観点も必要かもしれない。
P89	1-2-(2) 日本人留学生に対する支援					
P90	<22> 日本人学生の海外留学に関する情報提供等の実施状況				海外フェアのみ満足度データが記載されているが、他イベントについても必要では? 今後もオンラインがスタンダードとなると考えられるので満足度向上の取組につなげてほしい	機械学会などへの広報の効果はどの程度あったかの検証が望まれる。
P93	<23> 日本人留学生に対する学資金支給の実施状況		感染症危険レベル2以上の国・地域であっても例外的に支援対象とするなど、学生をできる限り支援する方向で臨機応変に対応したことは高く評価できる。 今後は、ワクチンパスポートと連動して、レベル2以上の国・地域に対しても派遣支援を全面的に再開することが望まれる。			大学院派遣において海外在住者及び国内社会人の応募が増えたということであるが、採用者のうちのどの程度を占めているのか。
P107	1-3 学生生活支援事業			コロナ禍の影響にもかかわらず、すみやかにオンライン実施に切り替え、予定通り業務が実施されたことは評価できます。		
P109	1-3-1(1) 学生生活、学生生活支援に関する情報の収集・分析・提供					

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
P109	<24> 学生生活・学生生活支援に関する情報の収集・分析・提供の状況			<p>学生生活調査については、4年制大学とは異なる特徴を持つ高等専門学校（4、5年次）及び専修学校（専門課程）についても、「高等専門学校学生生活調査」、「専修学校学生生活調査」として、本格実施したことは評価できます。</p> <p>セミナー等については、コロナ禍における学生生活支援の取り組みについて、まだ禍中にある各大学の教職員がオンラインで共有し、交流できたことは、教職員のエンパワメントとしても意義があったと思います。</p> <p>コロナ禍の収束後も、より多様な立場の教職員が受けられやすくするよう、セミナー等のハイブリッド型の企画実施が期待されます。</p>	<p>学生生活調査結果は7月時点でまだ集計中となっておりますが、令和2年の状況は早く知りたいところ。</p>	<p>学習状況の調査実施に関して国と経費負担はあるのか。</p>
P112	1-3- (2) 障害のある学生等に対する支援					
P113	<25> 障害のある学生等に対する支援に係る事業、調査・分析等の実施状況		<p>コロナ禍における各大学の状況をタイムリーに調査し、大学間での情報共有を促進したことは評価できる。</p>	<p>コロナ禍の影響も含め、さまざまな観点からの調査を実施し、結果をすみやかに公開していることは評価できます。ただ、回収率が調査によって大きくばらつきがあるのが気になります。事例概要の作成等は、確かにある程度制度の整った組織でないと回答しにくい調査かもしれませんが、どのような大学等においても、その時点での現状に基づいて何かは（モデル事例でなくても）回答できるような調査のデザインが工夫できるといっそうよいと思います。</p> <p>質問ですが、「『障害者差別解消法』施行に伴う障害学生に関する紛争の防止・解決等事例集」の作成のための調査対象として、高等教育機関、相談機関、とあるのですが、この場合の「相談機関」とは具体的にどのような機関を指すのでしょうか。</p>		
P117	1-3- (3) キャリア教育・就職支援					

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
P118	<26> キャリア教育・就職支援の実施状況			<p>キャリア支援においても、留学生支援や学生生活支援と同様に、中止せずオンラインで実施されたことは評価できます。一方で、他の領域のオンラインイベントや研修に比べて、参加者の満足度が明らかに低い数値となっているのですが、これはどのような要因によると分析されているのでしょうか。何かあればご教示ください。</p> <p>コロナ禍の収束後は、リモートワークの併用がより一般的になり、学生の働き方やニーズの多い職域も大きく変化していくことが予想されます。産官学連携による人材育成のグランドデザインのようなものを描くため、教職員の学びの場を準備することが、学生支援機構の役割としても求められていると思います</p>		視聴申込者と受講生の二つの尺度があるが、受講生でよいのではないか？
P124	II-1 業務の効率化					
P125	II-1-(1) 一般管理費等の削減					
P126	<27> 一般管理費（人件費、公租公費及び土地借料を除く。）削減の進捗状況				テレワークや、働き方改革の推進はどうなっていますか？細かい経費削減の次の段階の取組を。	
P126	<28> 業務経費（人件費、奨学金事業業務経費及び新規に追加される業務経費を除く。）削減の進捗状況	詳細をお伺いしないとわからない部分もありますが、一見して外部要因によって結果として削減されたものがA評価されることについて若干違和感があります。		コロナ禍で削減できた経費は多くあるはずですが、そこで確保できた分を、コロナ禍収束後の事業のハイブリッド化・ハイフレックス化で必要になる経費の財源として充てていただきたいと思います。	留学生数をもどった場合のシミュレーションを。	新型コロナウイルスに関連した業務経費の削減は、意味合いが異なる。B評価が妥当でないか
P127	<29> 奨学金貸与事業における事業規模の推移を踏まえた費用の効率化の状況					
P125	II-1-(2) 人件費・給与水準の見直し					

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
P129	<30> 政府の方針等を踏まえた総人件費の見直し及び給与水準の適正化に係る実施状況					
P130	II-1-(3) 契約の適正化					
P131	<31> 契約の適正化に係る実施状況					
P134	II-2 組織の効果的な機能発揮					
P135	<32> 組織改善、事業実施体制の構築状況					
P136	II-3 学生支援に関する調査・分析・研究の実施					
P137	<33> 学生支援に関する調査・分析・研究の実施状況					委託研究10件のうち5件が繰り越しとなったのはやむを得ない側面もあるが、調査方法などの見直しも必要ではないか。
P140	III-1 収入の確保等					
P141	<34> 収入の確保等の状況					2か月でコロナ関連の寄付金を約10億円集めたことは高く評価できる。ただし、なぜ2か月で終了したのか。
P142	III-2 寄附金事業の実施					

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
P145	<35> 寄附金事業の実施状況	素晴らしい取り組みであったと思います			学生生活調査結果(集計中だったが学生の困窮のデータは得られるのでは)をふまえて本年も同様の寄付金募集を実施してはどうか	
P147	III-3 奨学金貸与事業における適切な債権管理の実施					
P148	<36> 適切な債権管理及び貸倒引当金計上に係る実施状況					留学生支援事業の寄付金収益が予算より少ない理由の分析が必要。
P149	III-4 予算の管理及び計画的な執行					
P150	<37> 予算、収支計画及び資金計画の実施状況					
P178	<38> 短期借入金の調達状況					
P178	<39> 余剰金の活用状況					
P180	IV-1 ガバナンスの強化					
P181	<40> 事業運営への外部有識者の参画状況		外部有識者の意見等を積極的に取り入れつつコロナ禍や災害などに対して柔軟に対応したことは高く評価できる。			
P182	<41> 外部評価の実施状況					
	<42> ガバナンス確保の状況					

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
	<43> リスク管理の推進状況					
	<44> コンプライアンス職員研修の実施状況				コンプライアンスとともに個人情報保護の知識と実践は全員に必要なので、研修の実施とともに確認テストの受験かつ合格を必須としてはどうか。(小社はCBTで実施)	
	<45> 個人情報保護の徹底に係る実施状況				コンプライアンスとともに個人情報保護の知識と実践は全員に必要なので、研修の実施とともに確認テストの受験かつ合格を必須としてはどうか。(小社はCBTで実施)(再掲) 職員による漏洩件数増加は問題。	機構職員による個人情報の漏えいなどがあったことは遺憾である。原因分析が必要である。
	<46> 情報公開の実施状況					
	<47> 内部監査の実施状況					
	IV-2 情報セキュリティ対策の推進					
	<48> 情報セキュリティ対策の実施状況					
	IV-3 広報・広聴の充実					
	<49> 広報活動の実施状況					
	<50> 広聴活動の実施状況				広聴調査結果とそこからなにか改善事項等導き出せたのか知りたい	
	IV-4 施設及び設備に関する計画					

意見箇所	評価指標	荒張委員	佐藤委員	高石委員	角田委員	山本委員
	<51> 施設及び設備の整備状況					
	IV—5 人事に関する計画					
	<52> 人材の確保、適正配置、育成のための取組状況					